

2011年 (平成23年) 5月3日 火曜日

紙面から

感謝の気持ちも詰めました 20

タオルや歯ブラシ、せっけんにつめ切り…と日用品を詰めた「元気袋」を、京都府老人クラブ連合会が被災地に送る。「現地に行けなくても、地域ぐるみで支援したい」。2004年の台風被害でお見舞いを受けた恩返し of 思いも込めている。



タオル、せっけん…日用品入り

元気袋 真心も詰め

東日本大震災で避難生活を送る人たちに向けて、京都府老人クラブ連合会(府老連、京都市中京区)が、タオルやつめ切りなど日用品を詰めた「元気袋」を送る準備を進めている。7年前の台風23号災害で全国からお見舞いを受けたお礼の気持ちも込めており、「高齢者同士、真心を伝えたい」と張り切っている。

府老人クラブ連、送付へ



「元気袋」は全国老人クラブ連合会(全老連、東京)が呼びかけ、府老連は宮城県のある老人クラブ会員に送付する。きんちゃく型の袋に筆記用具やハンカチ、レターセット、歯ブラシ、せっけんなどを詰め合わせ、励ましのメッセージも同封する。

府老連は京都市を除く各市町村老人クラブ連合会が加盟。救済金の募集と合わせ、計1万個を目標に元気袋の準備を進めている。手日用品をコンパクトに詰めて被災した高齢者たちに送る「元気袋」

04年台風23号「お世話」被災地へ恩返し

作りの袋100枚やメッセージ付きの折り鶴を会員に託した高齢者もいる。

府内で15人が亡くなった2004年の台風23号災害の後には、全老連から府老連に約1千万円の見舞金が寄せられた。京丹後市老人クラブ連合会の小田貞彦会長(81)は「台風23号で全国のお世話になったうえ、京丹後市には1927年の丹後大震災の義援金で建てられた建物が残っている。何とか恩返しをしたい」と力を込める。

「元気袋」は受け入れ先の準備が整い次第、各市町村老人クラブから現地に送ってもらう。また、府内に避難している被災者にも届けられないか、検討する。府老連の寸田武事務局長(65)は「現地に行くことはできなくても、地域ぐるみで支援し、復興に向けた力になれば」と話している。

(目下田貴政)